

令和7年度 別府市中学生英国姉妹都市 バース市交流プログラム 報告書



事業概要………… P2

現地スケジュール…… P3

生徒報告………… P5

現地活動内容・総括… P16



事業概要

●目的

姉妹都市バース市での異文化体験、現地での交流（日本の文化とイギリスの文化の相互交流）を通じ、国際的視野を広げ、将来の国際化社会を担うグローバル人材の育成を目指す。また、事業を通じて別府市とバース市の姉妹都市間の親善を深めPRできる人材となってもらう。海外での研修活動を通して、多様な視点やアイデアを学び、国際的知見を深めるとともに、国際社会に対する意識や進路について考える契機とする。

※グローバル人材

「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素。

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

このほか、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと

(異質な者の集団をまとめる)リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等。

●主催

別府市国際交流推進協議会（別府市）

●実施先

英国 バース市

●実施期間

令和7年11月29日（土）～12月7日（日）（7泊9日）

●訪問生徒および引率者

生徒

別府市立東山中学校	3年 村津 市之助（むらつ いちのすけ）
別府市立朝日中学校	3年 重黒木 華月（じゅうくろぎ かりな）
別府市立中部中学校	3年 山田 真央（やまだ まお）
別府市立東山中学校	2年 栢原 陸（とちはら りく）
別府市立鶴見台中学校	2年 木村 朱里（きむら あかり）
別府市立北部中学校	2年 行部 陽花（ぎょうぶ はな）

引率

別府市文化国際課 玉田 雄一（たまだ ゆういち）

現地スケジュール

日程	月日 (曜)	訪問先（発着）	現地 時刻	詳細
1	11/29 (土)	別府市役所発 大分空港着 大分空港発 (JL674) 羽田空港着	17:00 18:15 19:30 20:55	参加者市役所駐車場集合 公用車1台にて空港へ
2	11/30 (日)	羽田空港発 (JL041) ヒースロー空港着 ヒースロー空港発 パディントン駅着 ロンドン市内視察 パディントン発 バース着	01:20 06:25 08:10 08:30 15:30 18:30	～日付変更線～ フライト時間（約14時間） BBFA 薫さんと合流 ヒースロー エクスプレスにてパディントン駅へ（スーツケース預け場所へ） パディントン駅→セント・ジェームズ・パーク駅→バッキンガム宮殿→ビッグベン（国会議事堂）→ナショナルギャラリー→ピカデリーサーカス→ボンドストリート駅→パディントン駅（地下鉄、徒歩） 荷物ピックアップ バースへ(Norfolk Square)から ELAC のバスで移動 各ホームステイ先へ移動
3	12/1 (月)	ホームステイ宅発	08:00 09:00～ 12:30 13:15 14:30 18:00	各自学校へ オリエンテーション、授業 バース市内でランチ 語学学校で研修 ホストファミリー宅へ
4	12/2 (火)	ホームステイ宅発	08:00 08:30～ 15:10 放課後 18:00	各自学校へ 授業、ランチ ローマンバース視察 ホストファミリー宅へ
5	12/3 (水)	ホームステイ宅発	08:00 08:30～ 15:10 放課後 18:00	各自学校へ 授業、ランチ ロイヤルクレッセント視察 ホストファミリー宅へ
6	12/4 (木)	ホームステイ宅発	08:00 08:30～ 15:10	各自学校へ 授業、ランチ

			放課後 18:00 20:30	市庁舎訪問 バース別府友好協会交流会 ホストファミリー宅へ
7	12/5 (金)	ホームステイ宅発	08:00 08:30- 15:10 放課後 18:00	各自学校へ 授業、ランチ 終了セレブション バースでフリータイム 各自ホストファミリー宅へ
8	12/6 (土)	ホームステイ宅発 バース発 ヒースロー空港着 ヒースロー空港発 (JL042)	03:00 03:45 05:40 08:35	ELAC のバスで各ホストファミリー先でピックアップ ～日付変更線～フライト時間 (13 時間 50 分)
9	12/7 (日)	羽田空港着 羽田空港発(JL663) 大分空港着 大分空港発 別府市役所着	07:25 09:30 11:15 11:35 12:30	公用車 1 台にて別府市役所へ

事前説明、研修会等

8月 12 日 (火) 参加決定者説明会(Web)

8月 14 日 (木) 研修① アイスブレイク、自己紹介など

8月 20 日 (水) 研修② バースで披露する折り紙練習

8月 26 日 (火) 研修③ 昨年度参加者による講習・質疑応答会

9月 3 日 (火) 研修④ バース友好協会会員 (バース在住) とオンライン顔合わせ

9月 17 日 (水) 研修⑤ 別府の紹介したい事を考えよう

10月 2 日 (木) 英語研修① 講師: バース別府友好協会研修エドワード・レザー氏

10月 16 日 (木) 英語研修② ツ

10月 30 日 (木) 英語研修③ ツ

11月 6 日 (木) 英語研修④ ツ

11月 13 日 (木) 英語研修⑤ ツ

11月 20 日 (水) 阿部副市長表敬訪問 (出発結団式)

11月 29 日 (土) ~12月 9 日 (日) 現地研修

2026年 1月 9 日 (金) 長野市長表敬訪問 (帰国報告会)

生徒報告

別府市立東山中学校

3年 村津 市之助



1日目、飛行機に14時間乗ることは大変だと思っていたが、機内では飲み物を頼んだり映画を見たり睡眠を取っていたらあっという間だった。深夜に飛行機に乗り、14時間もたったのにロンドンについてもまだ朝6時半だったのはなんとも不思議な感覚だった。

2日目からのロンドン観光ではバッキンガム宮殿や近衛兵、ナショナルギャラリーなどの有名な観光地に行った。どの建物も思っていたより大きく、迫力があった。街の中は360度どこを見ても日本では見られないような光景で、レンガを使った建物が多くた。途中、とても大きなおもちゃ屋さんに行った。そこではマジックの道具やイギリスが舞台のハリーポッターのグッズなど様々なものが売られていた。そこで、イギリスに行って初日から最終日まで驚いていたのが物価だ。円安により1ポンド約200円になり、イギリスの商品を日本円換算するとどれも高いと思った。水は1本約300円というのは普通で、おもちゃ屋の中の商品もとても高く感じた。夕方はホームステイ先の家に行き挨拶をした。優しく歓迎してくださり、明るい方でホッとした。夜はチキンドラムという小さい骨付きチキンにバーベキューソースをかけたものと野菜を茹でたものを、そしてイギリスの主食と聞いていたチップスを食べた。どれも味がしっかりしていておいしかった。ホストファミリーに持参した篠笛を披露して、竹細工が別府の伝統工芸であることを紹介できた。

朝食には毎日ポレージというものを作ってくれた。これは麦のようなものに牛乳を入れ温めた料理だった。これにシナモンとはちみつ、バナナを刻んで入れて食べた。お腹にたまる料理だったので、午前の学校のエネルギーになった。

セントグレゴリースクールではアンバサダーの人と話すことは、最初は緊張してあまりできなかったが、最終日にはクラスの人たちとも話すことができて良かった。スペイン語やドラマ、宗教など日本では見ない授業があり、ドラマでは演技をする人とナレーションをする人に別れて練習をした。どの授業も初めて全て英語で聞く授業で難しかったが面白かった。1番授業内で驚いたことは日本との授業を受けるときのマナー的なものが全然違うことだ。足を組んで授業を受けている子もいたが、先生は何も言っていないのを見て、別に失礼な行動ではないのかとマナーの違いを感じた。学校で一緒に行動をしてくれるアンバサダーには別府には温泉がたくさんあっていい町だということが伝えられたので良かった。

イギリスで私が楽しみにしていた食文化もいろいろ知ることができた。様々な料理がある中でも1番好きだったのがフィッシュアンドチップス、これはまず料理が出てきたときに驚いたのがその魚の大きさだ。ステーキよりも大きいそのサイズはなかなか見られないものだった。ビネガーという酢をかけたりタルタルソースのようなものをかけたりして食べた。身がとても柔らかく魚の下にあるチップスもとてもおいしかった。もう一度食べたいと思ってしまうほどのおいしさだった。

イギリスではキャッシュレスの会計が多いと聞いて、VISAのカードを作った。この選択は正解だった。スーパーでは機械で、自分で会計をすることが多く、カードを使いスムーズに買い物ができた。来年、バース交流プログラムに参加する人は現金を約100ポンドとカードに3万円ほど入れていくと良いと私は思う。物価が高いので



たくさん買い物をする予定の場合はかなりのお金がかかるので注意が必要だ。

イギリスに行って海外の人と喋るのに少し慣れることができた。イギリスは優しい人が多く集合写真を撮ってくれたり、笑顔で会話をしてくれたりして嬉しかった。滅多に出来ない体験を中学生で受けすることは勇気のいることだったが、日本と海外の違いを感じられたことがこれからの自分に大きく役立つと思う。イギリスの方と話して日本について少しでも伝えたいという当初の目標は自分なりに達成できた。





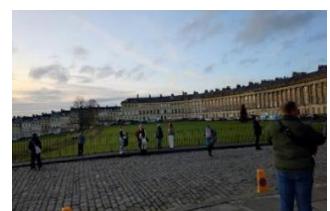
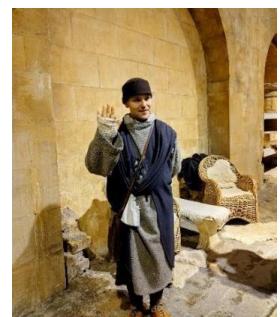
イギリスに着いて1日目はロンドン観光でした。空港から駅に移動して街に出ると、日本とは全く違う街並みを見る事ができました。レンガ造りの家が多く、歩くだけで歴史を感じることができました。1日という短い時間でしたが、“バッキンガム宮殿”や“ビッグベン”など様々なものを見ました。特に印象に残っているのはバッキンガム宮殿での“近衛兵の交代式”でした。あまり長くは見られませんでしたが、演奏も行進もとてもかっこよかったです。夕方にバスでバース市に移動し、ホストファミリーに会いました。とても温かく歓迎してくれて少し安心しました。そこからは、それがホストファミリーの家に向かい夕食を食べました。夕食を食べながら、ホストファミリーの方とたくさん話すことができました。

2日目から、学校訪問が始まりました。バース市のセントグレゴリーズスクールに行きました。全体のサポートをしてくれる学生さんに会いました。その子は、独学で日本語を勉強していて、とても上手に話していました。私も、彼女みたいにもっと勉強をしようと思いました。学校初日は、1時間しか授業を受けませんでした。少し緊張して思うように話せなかっただけ、学校の雰囲気などが分かりました。お昼前に学校を出て、“フィッシュ&チップス”を食べに行きました。想像以上にとても美味しい、また食べに来たいなと思いました。フィッシュ&チップスを食べ終わったら語学学校に行きました。イギリスの学校と日本の学校の違いなどを、クイズを通して学ぶことができました。英語しかしゃべってはいけないのが少し難しかったけど、悩みながらも自分の考えなどを英語で伝えることができました。



3日目から本格的な学校生活が始まりました。分からぬことが多かったですが、アンバサダーの子のサポートなどで楽しく過ごすことができました。私たちが訪問した学校はカトリックの学校だったので、授業前に祈りを唱えたりしていました。他にもクラスではなく個人個人にそれぞれの日課表があったりもしました。このように日本での普段の生活にはない新しいことを、たくさん経験することができました。学校が終わった後に“ローマン・バス”や“バース市の歴史”についても学ぶことができました。特に、出会ったローマ人の方にいろいろと質問をするのが楽しかったです。その方は、挨拶の仕方や履いている靴の特徴などを教えてくれました。

4日目は、喉が乾燥してしまって声が出せず、学校での活動に参加することができませんでした。イギリスは想像以上に乾燥していて、もっといろいろな対策をしておけばよかったですと思いました。飴を舐めたりしているうちに、少しずつ喉の乾燥が治って声が出せるようになりました。課外活動には参加し“ロイヤル・クレッセント”を観光することができました。そこでは、昔の貴族や貴族に仕える人たちの生活を学ぶことができました。



5日目、学校が終わった後に市長室に訪問に行きました。クッキーやジュースを準備してくれて、いろいろな話を聞くことができました。市長室訪問が終わった後は、歓迎会がありました。思ったより人がいたので、最初は少し緊張しましたが、いろいろな人が声を掛けてくれて、緊張も解けてたくさん話すことができました。歓迎会では、おにぎりやたこ焼きなどの日本食も準備してくれていました。

6日目は、学校にもバースにいるのも最後の日でした。明日には空港に向かい日本に発たなければなりませんでした。本当にあつという間でした。学校では、アンバサダーや友達とたくさん話しました。最後に、バッジと賞状をもらうことができました。校長先生は「この学校に来たからもう家族の一員だ」と言ってくれました。また、戻りたいなと思う本当に素敵な学校でした。ホストファミリーとも最後の食事を食べました。いつも、イギリスの伝統料理を食べさせてくれたり、好き嫌いを気にしてくれたり、体調が悪かったときもサポートをしてくれて、本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。明日には、お別れだと思うと悲しくなるけど「日本に行く」と言ってくれました。日本に来てくれたときには私がおもてなしをしたいと思いました。



1日目は期待とともに詰め込んだ荷物を持ち別府を出発した。そしてロンドンのヒースロー空港に着いた瞬間、案内表示板が全部英語で表記されていて「本当にイギリスに来たんだな」と実感し、ますます期待が膨らんだ。

2日目のロンドン観光では、信号機が縦向きだったり、仕組みが少し違ったり、また街一面にクリスマスの装飾が施されてたりと、ロンドンのすべてが日本とは違って感じられた。しかし、ロンドンの街並みはバスともまた違い、同じ国の様々な側面を知ることができ、とても有意義な一日になった。

3日目からは学校や課外活動を通して、沢山の経験や発見があった。私達が通ったセントグレゴリースクールには日本で言うと小学校高学年から高校生の年代の生徒が1000人以上通っており教室も数えきれない程あった。学校では毎時間全校生徒が教室を移動するのでとても校内が混雑したり、日本には無い、ドラマや中国語・スペイン語などの語学、ダンスやドラマの授業もあったりした。日本の学校とは全く違って「同じ世界でもこんなに違うんだな」と思い、まるで夢の世界に来たようだった。初日は、日本の学校とは違う事が予想以上に多く、これらへの驚きと今まで知らなかったことを知れる嬉しさでいっぱいだった。私の場合、初日からたくさん的人に良くしてもらい「翌日からの学校も早く行きたいな」と思ったのと同時に、「もっとコミュニケーションがとれたら楽しいだろうな」とも感じた。そして3日目は課外活動として通った語学学校での研修の成果もあり、以前より相手の話を聞き取れたり、自分の知っているフレーズや重要な単語だけを並べて伝えたりすると、私の話を理解してくれることが増えたように感じた。そして、会話のコツを掴んでいくと少しずつだけコミュニケーションが取れるようになり、たくさんの友達を作ることができて本当に嬉しかった。授業では友達が今は何をすればいいのか等を教えてくれ楽しく受けることができた。今回のプログラムの中でも学校で過ごした時間が一番の思い出だと言っても過言ではないほど楽しかった。

夕方の課外活動では目的地への往復の時に、きれいなバスの建物を見る事ができた。街のすべての建物はバースストーンと呼ばれるクリーム色の石灰岩が外装に使われており、街の雰囲気が統一されていて美しかった。また、バース市内の建物の平均築年数は200年だと言われている。このような建物を実際に見ることができ素晴らしい経験になった。夜になり辺りが暗くなつてからは建物がライトアップされ、より一層美しかった。加えて、たくさんの人が私達に優しく声をかけてくれたところが嬉しかった。ロンドンでは私達が集合写真を撮ろうとした時に「撮りましょうか」と聞いてくれる人が多くいた。



また学校には様々な国籍・ルーツの生徒がいた。そして私達のような留学生。生徒全員がクラスメイトや留学生のことを差別せずに平等に接していたし、私達を大歓迎してくれていた。日本ではやはり国籍が違う方に会うと仲良くなる前は隔たりを感じてしまう人が多いと思う。しかしイギリスでは様々な国籍の人と過ごすことを当たり前としている。私は国籍や人種に関係なく積極的に国際交流をすれば、みんなが同じ人だと思うことができて、より豊かな国際社会になるのではないか、と考えることもできた。

また、イギリスには配慮があるけれど日本人より内気では無いように感じた。日本人はあまり知らない人に積極的に話しかけることは得意ではないが、小さい気遣いは得意である。それが日本の製品が高性能で安全だと言われる要因ではないかと思った。例えば、日本のエスカレーターの速度はゆっくりで、黄色い線がある。階段のような段差は一段の大きさが低い。これは日本人ならではの配慮からだと気づいた。人々の性格が街や製品に大きく関係していることも新発見できた。

最後に、私達にこのような貴重な体験ができるように準備をしてくださった皆さん、ホストファミリーの方、学校での時間を素晴らしいものにしてくれた皆さん、一緒に行った皆さん、本当にありがとうございました。一生心に残る素晴らしい経験ができました。来年以降もこのようなプログラムがあるなら、これは外国人の友達を作ったり、日本を出て自分の感覚で様々なことを学べたりする良いチャンスになると思うので、ぜひチャレンジしてみて下さい。そしてこれからは今回学んだことを自分の人生に活かすのはもちろん、たくさんの人にも伝えたいと思います。最高の日々をありがとうございました。

英国到着初日のロンドンでは、歴史あるビッグ・ベンや英國国王が住んでいるバッキンガム宮殿などの観光地を訪れた。バッキンガム宮殿では、衛兵のパレードを間近で見ることができ、その迫力に圧倒された。ロンドンの街並みはどれも歴史を感じる建物が多く、どこを見てもとても美しかった。



学校体験では、日本との違いを多く感じた。私のホームステイ先は学校から少し離れていて毎日バスで通う必要があった。初日の登校は9時集合で、7時半のバスに乗るために、朝早くホームステイ先を出なければならなかった。途中、バスのチケットとパスポートを家に置いてしまっていることに気がつき、急いで家に戻って再びバス停に向かうことになった。初日は英國らしい天気の雨で、レインコートを着ていても制服が濡れてしまった。

学校に通う一週間、私たちのお世話をしてくれる「アンバサダー」が1人につき4名ついてくれた。授業は、生徒一人ひとり日課表が異なっていて、教科ごとに別教室へと移動する仕組みになっていた。1つの授業の長さは50分間で休憩が5分あり、この点は日本の学校と似ていた。日本の学校では黒板が主流だけれど、今回体験した7年生の授業では、ホワイトボードや書き込みが可能な電子モニターが使われていて驚いた。今回受けた様々な授業の中で、私が特に受けやすいと感じたのは、数学の授業だ。授業内容が、日本では小学生のときに習う「小数の割り算」だったのでとても簡単で、日本の数学教育のレベルの高さを感じた。初日は体育もあり、2000m持久走だった。前日の観光で25000歩も歩いていたので、疲れもあってとてもきつかったが、今思うと良い思い出になった。昼食は街中に出でて、あの有名なフィッシュ&チップスを食べるという体験もできた。英國のフィッシュ&チップスは古くからの国民食とのことで、フィッシュは、日本の天ぷらに似ていて、とても美味しく食べやすかった。

ホームステイでは、ホストファミリーと夕食を食べ、テレビでサッカーの試合と一緒に見るなどして、毎日交流を楽しんだ。ステイ先ではローストチキン&チップスなどをいただいた。英國では様々な料理にじゃがいもが使われていた。朝食は、ポリッジというオーツ麦を牛乳でゆでて柔らかくしたものに、フルーツ、蜂蜜、シナモンを加えたものをいただいた。寒い朝には体が温められて、とても心地よかったです。

課外活動では、世界遺産にも登録されているローマン・バスやNo.1ロイヤルクレッセントに行くことができた。古い建物を間近で見られて、歴史の重みを感じた。ローマン・バスは、西暦60-70年頃にローマ人によって作られた入浴施設とのことで、現在は博物館になっていた。博物館では、ローマン・バスの歴史や発掘されたものの展示、温泉水を飲む体験などができた。No.1ロイヤルクレッセントは、18世紀頃に建築家ジョン・ウッドによって建築された三日月の形になっている古い建物で、今でもその建物は綺麗に保存されていて、現在もそこには住民がいるとのことだった。バース市内の建物の多くは、バースで採掘されるというハニーカラーのバースストーンで作られており、昔ながらの風景が現在もそのまま大切に保存されていて、とても綺麗だった。バースは、別府市と同じく温泉地としても有名であり、地域の方がまちを大切にされて、それらが観光資源となっているというところが、私たちの別府のまちと似ている部分であると感じた。





この一週間は、雨の日の通学や長距離の移動など、とても大変なことが多くあったけれど、バース市で様々な体験をすることで、色々な知識や経験を得ることができた。学校では、日本と英国の学校生活の類似点・相違点などを見つけることができ、またホームステイでは、生活習慣や食文化の違いなどを経験することができた。英国に行くことで、視野を広げることができ、最高の一週間を過ごすことができたと思う。この機会を支えてくださった多くの方々に心より感謝し、今回の研修で得た知識や経験を、今後の生活にしっかりととかして、これからも新しいことに積極的にチャレンジしていきたいと思う。

私は今回の研修で、周りに恵まれ学校が楽しかったこと、バースストーンで作られた歴史的な街並みが心に残りました。

学校生活は新しいことがたくさんありました。私の大好きなハリー・ポッターの世界の様でした。制服はブレザーでネクタイの色が赤、紫、黄、青の4つに色分けされています。いいことをしたらポイントが入り、お菓子などがもらえるそうです。生徒はフレンドリーで優しく、面白く自由な感じです。色々な人種の人がいるけど、一人ひとり尊重していると思いました。また、スカートを折っていて丈がとても短いです。

授業の始めは先生や生徒が聖書を読み、アーメンと言ってスタートします。初日に体育の授業があったのはラッキーでした。バスケットの同じチームの人とすぐに仲良くなりました。ハーマイオニーみたいなナタリー。日本語を話してくれるポーランド人のスザナ。イギリスで生まれ育ったインド人のジャスミンみたいなアメヤ。3人ともとても優しく、ディズニーの話や日本食などの話をしました。とても楽しかったです。色々な授業を受けました。英語の授業は日本語の国語なので早すぎて何を言っているかわからなかったけど、他の授業はわかりました。数学は簡単すぎて"Amazing"と先生に言われ、アンバサダーからは"Oh My God"と言われ驚かされました。宗教やドラマ、外国語としてスペイン語の授業もありました。音楽はギターをもって外に出て自然の中で弾くものもありましたが、寒すぎました。

バースの研修にあたりたくさんの人にお会い、お世話になりました。市役所の方、エドさんが英語研修をしてくれました。ホストファミリーは優しく、タイカレーやパスタを作ってくれその日にあった出来事を話しながら食べました。薰さんはヒースロー空港まで出迎えてくれロンドンやバースを案内してくれました。バース市ではバースストーンを使い同時に家を建てる事ができません。それは温泉が出なくなったら困るからという話が心に残りました。一つ一つ丁寧に説明してくれたので歴史を知ることができ、バースの街並みの美しさをさらに感じることができました。また、別府にラグビーで来た3人の男の子のうち1人が去年私のクラスに来た一人で隣の席で給食を食べた人だったので驚きました。アンバサダーの子たちもいい人だったし、サムはフォークを櫛代わりに使う面白い人でした。また、クラスメイトと変顔対決をしました。バスケメンバーは毎日ランチやブレイクタイムに来てくれ、折り紙や話をしたのがいい思い出です。

そして5人のメンバーと玉田さん。みんな面白く個性豊かでした。5人が一緒だったからお互い助け合い、安心してバースに行くことができました。同じ景色を見て、同じものを食べ、クリスマスマーケットでショッピングをしたのもいい思い出です。

まだずっとバースに居たかったです。セントグレゴリーに転入したいぐらいです。困ったことがなかったのは、みんなのおかげです。すべての人に感謝したいです。



私はこの7泊9日のバース研修で多くのことを学びました。私がこのプログラムに応募した理由は、英語でコミュニケーションをとりたいという思いと文化の違いを学びたいという思いがあったからです。

ところが、実際にイギリスに行ってみると、英語でコミュニケーションをとることは、私にとってとても難しいことでした。イギリスに行く前は、話せなければジェスチャーで伝えてコミュニケーションをとろうと思っていましたが、その前に英語を聞き取ることができませんでした。英検や学校のテストでしか英語を聞いていなかったので、想像以上の速さで話され、3日目くらいまでは、聞き返したり、わからなかったりすることが多かったです。楽しみにしていた分、とても落ち込みました。そのため、学校が終わった後に英語を勉強しました。アンバサダーの子は私の状態を理解してくれて、ゆっくり話したり、紙に書いたりしてくれました。アンバサダーの優しさに支えられ、日に日に英語が聞き取れるようになりました。まだ聞き取れないこともありますが、初日よりもはるかに話せるようになりましたと思います。

文化の違いについては、強く心に残ることが多かったです。特に驚いたことは、日本では食前に「いただきます」、食後に「ごちそうさまでした」と言うことが当たり前ですが、イギリスには決まった言葉はありませんでした。主食も白米ではなく、芋や豆でした。さらにイギリスの学校は、様々な国籍の生徒がいるので、私がアジア人だからといって差別をされることはありませんでした。それどころか日本の文化や言語に興味を持ってくれて、話しかけてくれる子が多かったように感じ、とても嬉しかったです。学校内は上履きに履き替えることはなく、ずっと靴で慣れなれなかったり、授業ごとに大きな校舎の中を歩き回ったり、教室が次から次へと変わるので、日本との違いに困惑しました。



今回、私が通った学校は、中学校、高校という区切りがなく色々な年齢の生徒がいました。数学は日本より基礎的な問題が多かったのですが、パソコンの授業では、タイピングの速さやプログラミングの技術がとても高度で、日本とイギリスの重点的な科目が異なるように感じました。

しかし、共通点も多くありました。バスや電車などの公共交通機関は多少遅れることがあっても、多くの場合は時間通りに来していました。また、きれいな一列になって乗る順番をしっかりと守り、乗り物の中で話している人は少なく、話している人も小声でした。学校には学校ごとに異なる制服があり、集会があったり、授業の終わりを表すチャイムもあったりしました。

このようなイギリスの文化に触れて気付いたことは、私は「日本の当たり前」で物事を見て判断していたということです。日本での自分の感覚が必ず正しいというわけではないし、実際に日本もこうしたらしいかもと感じることが、数多くありました。そのため、私は自分の価値観で物事を見てしまう前に、よく知り、尊重することが大切だと学びました。

私は、このプログラムに参加して、普段は経験できないたくさんのことについて学ぶことができました。ホストファミリーは、とても親切で、私が学校で上手くコミュニケーションを取ることができず、落ち込んでいる時には「母国語と違う言語を話すことはとても難しいことだから大丈夫。」と励まして下さったり、毎日おいしいごは

んを作つて下さつたり、ケーキを焼いたりして下さいました。私以外のみんなは、上手くコミュニケーションを取れていますのに私だけできないと落ち込むことが多かつたですが、ホストファミリーがそれを忘れさせてくれるくらい楽しい思い出を作つて下さいました。ずっと味方でいてくれたホストファミリーに感謝の気持ちでいっぱいです。そんなホストファミリーがいたからこそ、日に日に学校でもコミュニケーションを取れるようになり、いつの間にかとても居心地が良い場所になつてきました。だからこそ、ホームステイ先と学校を離れる際には、泣いてお別れをするほど悲しかったです。1週間という短い期間でしたが、今でも連絡を取り合うほど仲良くなることができました。今までで一番早くて一番思い出に残る1週間でした。絶対に忘れないほど強く心に残っています。この研修で学んだことを活かし、今後もこのようなグローバルプログラムに積極的に参加していきたいです。



現地活動内容

文化国際課

玉田 雄一

11月29日（土）

17:00、別府市役所集合、公用車1台で大分空港へ出発。

大分空港での搭乗手続きはスムーズで、昨年は厳しく確認された18歳未満の渡航同意書の提出も求められなかった。JAL国際線の無料受託手荷物許容量は23kgだが、既に23kg近い荷物になっている生徒が数名いた。

大分→羽田 T1（ターミナル1）JL674便（19:30→20:55）定刻に出発（荷物は直接ヒースローまで）。

羽田空港到着後、生徒1名より「フライト中に耳が痛かった」と報告があり、持参の薬を服用するよう指示した。

羽田T1→T3（ターミナル3） 無料の空港シャトルバスにて移動。

深夜発（1:00）便利用者は22時からサクララウンジを利用できたため、ラウンジ内で食事・休憩をとった。羽田到着から出発まで時間の余裕があり、さらに14時間の長距離フライトを控えていたことから、来年度以降も同時間帯の便があれば利用を推奨する。



11月30日（日）

羽田T3→ヒースローT3 JL0041（01:00→06:25）定刻より20分遅れで出発。定刻に到着。

機内では特にトラブルはなかったが、短時間しか眠れなかつた生徒もいた。

到着後の入国審査の自動化ゲートで私および生徒4名の計5名がスキャンエラーとなり、有人カウンターへ案内された。事前に準備していた「18歳未満の渡航同意書」「語学学校からの受入書」「英語版のスケジュール表」を提示しようとしたが、「何も出さずに話してください」と言われ、口頭で対応した。

入国審査官からは「子ども達とどのような関係か」「滞在期間はいつまでか」「今日は何をするのか」などを質問されたため、「姉妹都市の交流プログラムの引率者であること」「今日はロンドン観光、月～金でバースの学校に通い、土曜に帰国する」と説明し、問題なく入国できた。自動化ゲートを通過していた2名の生徒とは無事合流。時間がかかったため、荷物の受け取り場所では、JAL職員が荷物をレーンから下ろし、待機してくれていた。

空港内でBBFA（バース別府友好協会）ジェイクス薰さんと合流。

ロンドン観光に備え、機内用スリッパや上着、手袋など、スーツケースと観光の際に持つかばんの荷物の入れ替えを行った。



T3からヒースローイクスプレスでパディントン駅へ移動（15歳以下は無料）。

約15分で到着し、事前予約済みの駅近くの場所へスーツケースを預けた。

その後、セント・ジェームズ・パーク駅へ移動し、「バッキンガム宮殿」「ビッグベン」「ナショナルギャラリー」などを見学した。

ナショナルギャラリーの見学後、近くの飲食店で昼食を取った。座って休憩できる店を選んで入店したため、生徒たちは体を休めることができた。長距離の徒歩移

動が続くことから、昼食は必ず座れる店を選ぶことが重要だと感じた。また、昼食前にナショナルギャラリーを見学したが、生徒たちはその時点ですでに疲れが出ていた。そのため、来年度以降は昼食をとて休憩した後に視察場所を訪れるほうが望ましいと感じた。昼食後は、ピカデリーサーカス周辺を散策した。

その後パディントン駅に戻り荷物を受け取り、ELAC（語学学校）の手配の送迎車にて 15:30 にバスへ出発。18:30頃バス到着後、ホストファミリーへ引渡しを行った。



12月1日（月）

【午前 初登校】

各自ホームステイ先で朝食をとり、全員でバスセンターに集合し、バスで学校へ向かった。2名の生徒のホストファミリーは BBFA のキャロラインさんであり、バスセンターまで同行していただけた。初日は薫さんにバスセンターにて、バスの乗車まで誘導していただいたおかげで問題なく乗車できた。翌日以降は、キャロラインさんが学校へのバスの乗車をサポートしてくれることになった。

その後、全員でバスにてセントグレゴリースクール (St Gregory's Catholic College) へ向かった。

学校到着後、以下の方々が対応してくださった。

- ・カラ（昨年に引き続き交流担当となってくれた学生）
- ・ノーバーグさん（国際交流担当）/Charles Nordberg

Teacher of Humanities/ International Placement Co-Ordinator

・校長先生/Mrs Melissa George Headteacher



私と薫さんは常時図書室で過ごし、別府市中学生も授業以外の時間は図書室で過ごすことになった。

ウェルカムセレモニーでアンバサダーと対面し、校内案内や簡単なゲームを通じて交流を行った。今回のプログラムでは生徒1名もしくは2名につき4名のアンバサダーがつき、各授業の教室まで連れて行ってくれるなどのサポートをしてくれた。昨年度は1名体制での対応であるバディ制度であったため、一緒に移動できない場面があったが、今回は4名体制となったことで、常に付き添える体制が整っていた。

その後、午前中の1コマのみ授業を受けた。



【午後】

セントグレゴリースクールでの授業後市内に移動し、レストランでフィッシュ&チップスの昼食を取った後、語学学校で研修を行った。生徒たちは午前中の授業で英語をうまく理解できず自信を失っていたが、語学学校で英語を多く話す機会を得たことで、徐々に自信を取り戻したようであった。

研修終了後はバース中心部のバスターミナルから各自ホームステイ先へと帰宅した。



12月2日（火）

【午前 通常授業】

学校到着後、現地の生徒は8:40からAssembly（ホームルーム）があるため、中学生は図書室で待機し、カラがその日の授業内容の確認などを行ってくれた。

9:15から1限目が始まり、11:10にモーニングブレイクに再集合。その後11:35から3限目、13:30からランチタイム、14:15から5限目の授業に参加した。終了後はバスに乗りやすいよう、他の生徒よりも早めに教室を退出できるよう配慮してくれた。生徒達は初日に比べて授業に慣れてきた様子であった。

モーニングブレイクやランチタイムの待機場所は図書室であったが、この図書室が生徒たちの集まるエリアの近くにあったため、アンバサダー以外の生徒とも交流を持つことができた。写真撮影については厳しく制限されており、アンバサダー以外の生徒が写り込む状況では撮影できなかった。

ランチ BOX は、前日に 3 種類のメニューから 1 つを選んで注文する形式であった。パンと焼き菓子、サラダが毎日付いており、充分な量だと感じた。

また、現地ではモーニングブレイクやランチタイムにお菓子を食べるのが一般的で、準備していた日本のお菓子を現地のお菓子と交換するなどの交流が見られた。ただし、ナッツ類の持込みが禁止されているため、人気があると事前に聞き用意していたキットカットはナッツを使用していないものの、「ナッツを含む製品と共に設備を使用している」との理由で、持込むことができなかった。



休み時間にはスマートフォンの使用が許可されているため、WhatsApp や Instagram など SNS のアカウントを交換する様子も見られた。

【午後】

放課後はローマンバースを見学した。

日本語での音声ガイド機器があるほか、薫さんからも詳しい説明をいただいたため、理解を深めながら見学することができた。ローマ人に扮したスタッフと会話できるコーナーもあり、生徒たちは積極的に英語を使ってコミュニケーションをとっていた。館内は混雑もなく、ゆっくり見学することができた。

ローマンバース見学後は、スーパーマーケットで買い物をし、バスで各自ホストファミリー宅へ帰宅した。



12月3日（水）

朝、生徒 1 名から「喉が痛くて声が出ない」との連絡があった。熱はなく、本人は午後からの授業参加を希望していたが、薫さん及び学校と協議のうえ、放課後の課外活動から参加するよう伝えた。

この日、4 名がホストファミリー宅からバスターミナルへ同じバスに乗車し向かっていたが、うち 3 名が降りる場所を誤ってしまったと報告を受けた。私も別のバスに乗車しバスターミナルへ向かっている途中であったため対応ができず、薫さんに 3 名と連絡をとっていただくよう依頼した。結果として 3 名は一つ前のバス停で降車していたため、歩いてバスターミナルへ向かうことができ、無事に合流することができた。

学校到着後、別の生徒1名からも「喉の調子が悪く、鼻水が出る」との報告があった。無理はしないよう伝えたが、本人は授業・課外活動とも参加した。初日からのハードスケジュールに加え、日本より空気が乾燥していることが影響しているようであった。

【午前 通常授業】

通常授業は見学不可だが、体育の授業が図書室近くで行われており、腕立て伏せやスクワットをしている様子が見え、日本の体育との違いを感じた。

また、ノーバーグさんより翌4日・5日のランチタイムに折り紙交流を行う機会を設けていただいたため、生徒には翌日折り紙を持参するよう伝えた。

【午後】

放課後は体調不良で学校を休んだ生徒も回復したとのことで合流し、ロイヤルクレッセントを見学した。見学は、前日のローマンバースに続き薫さんがガイドしてくださいり、理解しながら見学することができた。

その後、バスで各自ホストファミリー宅へ帰宅した。

午後から、私自身も軽い喉の痛みと鼻水の症状が出始めたため、風邪薬を服用した。熱はなかった。



12月4日（木）

私の体調について、朝起床する、喉の痛みと鼻水の症状が続いていたが、熱はなかった。午後には症状はかなり改善した。前日に学校で体調不良を訴えた生徒について学校で体調を確認したところ、喉の症状は治ったものの鼻水がひどいとのことだった。熱はなく体のだるさもないことで、無理をしない範囲で授業に参加するよう伝えた。

【午前 通常授業】

モーニングブレイクとランチタイムには現地の生徒と一緒に折り紙交流を行った。アンバサダー以外の生徒も興味を持って参加し、多くの生徒と交流ができた



【午後】

この日は放課後に市庁舎訪問が予定されていたため、授業を少し早めに切り上げて学校を出発し、16:00に市庁舎を訪問した。

バース市長だけでなく、議員やELAC語学学校職員、カラや今年2月に別府へラグビー交流で来日した学生たちなども参加してくれた。

一行は市長室へ案内され、飲み物を受け取った後、Bharat Pankhania市長より挨拶をいただいた。市長は教育を重視しており、「異なる人種・言語の人とコミュニケーションをとる経験の重要性」を強調された。続いて、薰さん、私、生徒6名から順に一言ずつ挨拶を行った。

挨拶の後、市長から「質問はありますか」と促され、市長の一日のスケジュールや好きな日本食についての質問があった。市長の本職は医師であり、市長業務の後は医者としての仕事もあるため非常に多忙であるとのことであった。また、好きな日本食として、「ナス料理」を挙げ、ナスの中に具材を詰めて食べる料理が好みだと話されていた。さらに、市長から日本の中学生へも質問があり、「日本は少子高齢化が進んでいるが、どのように解決すべきだと思うか」という内容で、生徒たちはそれぞれ自分の意見を述べていた。

その後は、市長室の隣にある議場を見学した。



市庁舎訪問後は、18:00からBBFAの交流会が開催された。カラやラグビー交流で来日した学生たちも引き続き参加してくれ、生徒たちもリラックスした雰囲気の中で積極的に会話していた。ケータリングではおにぎりやたこ焼きが提供され、生徒たちも楽しんで食べていた。





12月5日（金）

【午前 通常授業】

前日に引き続き、モーニングブレイクとランチタイムには現地の生徒と折り紙交流を行った。

【午後 お別れの会を実施】

滞在はわずか1週間であったが、アンバサダーとの別れに涙を見せる生徒もあり、深い交流ができていたことがうかがえた。学校を去る際には、「まだバースにいたい」という声も多く聞かれた。

その後、バース市内でお土産の購入のため買い物を行った。バースでは食品系のお土産は主にスーパーマーケットで購入することが慣例であり、この日以外にも課外活動の帰りに何度も立ち寄っていたため、無事にお土産を購入することができた。

買い物後はバスにてホストファミリー宅へ帰宅した。



12月6日（土）

3：15、バースからヒースロー空港T3へ出発。

ELAC手配の送迎車（行きと同じドライバー）が私のホームステイ先から順に、各ホームステイ先へ迎えに行った。薰さんは1組目のホームステイ先で合流し、車で後方から付き添ってくださいました。2組目のホームステイ先を一度通り過ぎるトラブルがあったが、すぐに薰さんがドライバーへ連絡し、対応していただいたため、ほぼ予定通りの3：50には全員の迎えが完了し、ヒースロー空港T3へ向けて出発した。薰さんとは最後の3組目のピックアップ先でお別れをした。

5：30、ヒースロー空港T3到着。

チェックインの際、生徒1名の荷物が無料手荷物許容量を約10kgオーバーしていたため、超過手荷物料金75ポンドを支払った。他にも23kgぎりぎりの生徒が複数名おり、事前に重量制限について周知していたものの、結果として超過が発生したため来年以降は更なる注意喚起が必要だと感じた。

出国審査後の荷物検査では、特に問題はなかった。

荷物検査後は免税店等で買い物をする時間もあり、お土産を買う生徒もいた。

ヒースロー空港 T3→羽田空港 T3 JL0042 (08:35→07:25) 定刻に出発。

12月7日(日)

羽田到着(T3)に定刻に到着。

降機後すぐにVisit Japanの手続きが必要であったが、登録が完了していない生徒もいたため、手続きに時間を要した。イギリスを出発する前に登録が完了しているか確認するべきであった。

入国審査および荷物受取は問題なく完了し、T1へ移動した。T1で再度手荷物を預けたが、前日の超過手荷物料金が適用されていたため、ここでは追加料金は発生しなかった。

搭乗時間の1時間前に保安検査を通過し、大分行きの便へ搭乗。

羽田T1→大分 JL663便(09:30~11:15)定刻に出発。

大分空港到後、公用車1台にてあす・べっぷへ向かった。あす・べっぷの駐車場にて保護者へ生徒を引き渡し、全行程を無事終了した。

総括

本事業は初の試みとなった昨年度に続き、第2回目の実施となりました。今回は昨年度の経験と反省を踏まえ、プログラム内容の更なる充実を図りました。具体的には、英国の代表的な食文化であるフィッシュ＆チップスの食事体験や、語学学校での研修を新たに導入するなど、生徒たちがより深く現地の文化や言葉に触れられるよう行程を見直しました。

現地では、空港への出迎えから最終日まで全行程に同行してくださったジェイクス薫氏をはじめ、バース別府友好協会の方々、ホストファミリーの方々、セントグレゴリースクールの方々が温かく生徒たちを迎えてくださいました。特にジェイクス氏には、通訳や案内だけにとどまらず、生徒の気持ちに寄り添い、親身になってサポートしていただきました。

また、セントグレゴリースクールでの受け入れ体制も強化されました。現地活動内容にも記載の通り、今年度は「アンバサダー制度」が導入され、日本人生徒1~2名に対して4名のアンバサダーがケアにあたる体制が整い、接する現地生徒の数が大幅に増加しました。その結果、授業時間や休み時間などで手厚いサポートを受けることができ、多様な交流機会が生まれました。こうした多くの方々の献身的な支えがあったからこそ、大きな問題もなく全行程を無事に終えることができたと実感しております。

滞在中、生徒たちは現地での学校生活や市庁舎訪問、ホストファミリーとの生活など、経験したことない環境に身を置きました。学校生活の初日は緊張した面持ちでしたが、日を追うごとに環境に馴染み、休み時間のお菓子交換や、折り紙交流などを通じて現地の生徒と深く打ち解けていきました。こうした交流の中で、失敗を恐れずに英語でコミュニケーションを取ろうとする姿はとても頼もしく映りました。

そして、最終日には「まだバースにいたい」と名残惜しそうに話す生徒もあり、本事業が彼らにとって、充実したかけがえのない経験となったことが強くうかがえました。

一方で、慣れない環境下での体調管理の難しさや、飛行機の無料手荷物許容量なども見越した荷物の管理など、親元を離れたからこそ学べた「ほろ苦い経験」もありました。しかし、これらも含めて、日本とは異なる文化や生活習慣を肌で感じた経験は、彼らの視野を大きく広げたことだと思います。

参加した生徒たちには、今回の経験を一過性の楽しい思い出に終わらせることなく、今後の学校生活や進路選択に活かし、周囲へ還元してくれることを期待しています。

今後も、本事業を通じて次世代を担う青少年の国際感覚を養うとともに、別府市とバース市の姉妹都市としての絆をより深めていけるよう、関係各所と連携しながら尽力していきたいと思います。